

のうち、Sh. flexneri group 7株と、Sh. sonnei 1の2株は、SM、CM、TCの3種薬剤に対して、50 γ /ml以上の耐性を示した。なかでも、Sh. flexneri 2a—1株、2b—3株3a—1株の計5株は、SMに対して、500 γ /ml以上の耐性を示している。

一方、耐性菌が、SMとCM、SMとTC、CMとTCなどの2種薬剤のみに耐性を示す菌株は全く認められず、SM、CM、TCの3種薬剤に耐性を示す菌株は、Sh. flexneri group 7株(2a—1株、2b—3株、3a—3株)と、Sh. s-

onnei 1—3株の計10株(11.2%)に認められた。

このように、分離される赤痢菌の供試菌株中、11.2%が比較的高濃度の抗生物質に対し、且又同時に抗生物質3種に対して、耐性を有しているということは、注目すべきことと思われる。

参考文献

1) 茂木： 秋田県 衛生研究所報 NO.6 P 16, 1962 他省略

3. 仙南村後三年地区に発生した集団赤痢の赤痢菌の薬剤感受性について

秋田県 衛生研究所 茂 木 武 雄

秋田県 大曲保健所 高 橋 嘉 一 郎

I ま え が き

昭和37年7月、仙北郡仙南村後三年地区に赤痢が集団的に発生した時に、余等は、同地区住民の保菌者検索を実施して、98株の赤痢菌を検出した。この分離した赤痢菌のうちから、流行の原因菌である菌型と思われるSh. flexneri 2aについては、感受性ディスク法で Dihydrostreptomycin, Chloramphenicol, Tetracycline の3種薬剤につき、感受性試験を実施したのであるが、その結果を報告する。

II 供試菌株及び使用薬剤

1 供試菌株

昭和37年7月、仙北郡仙南村後三年地区の赤痢集団発生に於て分離した赤痢菌は、Sh. flexneri 2a—97株、2b—1株の計98株であつたが、そのうち、比較的初期に分離し、しかも流行の原因である菌型と思われる Sh. flexneri 2aを25株抜出し、実験に供した。

なお、上記菌株は分離後2代のものである。対照としては、国立予防衛生研究所から分譲を受けた Sh. flexneri 1a(中村菌種伝研株)を使用した。

2 使用薬剤

ⓀKK製品である次の感受性ディスク(抗生物質)3種を使用した。(1表)

第1表 使用薬剤

区分 感受性ディスク名	薬剤濃度		
	最低濃度	中濃度	最高濃度
Dihydrostreptomycin (SM)	2 mcg	10 mcg	50 mcg
Chloramphenicol (CM)	5 "	10 "	30 "
Tetracycline (TC)	5 "	10 "	30 "

III 検査方法

実験の方法及び判定の方法は、製造所発行の指示書に従つて実施した。(附記—指示書抜萃参照¹⁾)

IV 検査成績

供試赤痢菌25株の感受性ディスク法によるSM、CM、TC3種薬剤に対する感受性試験結果は、2表のとおりである。

第 2 表

仙北郡仙南村後三年地区赤痢集団発生の際
分離した赤痢菌の薬剤感受性試験成績

番号	被検査者 氏名	性	年 令	住 所	分 離 年 月 日	菌 型	S			M			C			T		
							2 mcg	10 mcg	50 mcg	5 mcg	10 mcg	30 mcg	5 mcg	10 mcg	30 mcg			
240	三〇和〇	男	14	後三年鉄道公社	昭和 37.7.18	Sh. flexneri 2a	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
241	三〇征〇	女	24	"	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
243	藤〇誠〇	"	3	後三年	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
245	照〇孝〇	男	20	上四ツ谷	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
246	小〇圭〇	女	2	(米 屋)	"	" 2a	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
247	小〇正〇	男	32	金沢西根	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
249	高〇三〇	女	8	金沢西根四ツ谷	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
250	久〇良〇	男	31	上四ツ谷	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
251	小〇正〇	"	13	後三年駅前	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
254	梅〇光〇	"	17	上匹ツ谷	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
255	渋〇ふ〇	女	34	"	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
259	照〇広〇	"	6	"	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
262	下〇良〇	男	22	"	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
263	高〇健〇	"	60	後三年	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
264	藤〇利〇	"	8	南谷地	"	" 2a	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
265	瀬〇〇誠	"	24	上四ツ屋	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
266	佐〇恭〇	女	24	後三年駅前	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
267	佐〇ひ〇	"	43	上四ツ谷	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
268	金〇和〇	男	17	後三年	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
271	金〇洋〇	"	17	"	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
274	鎌〇政〇	"	15	"	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
275	高〇和〇	女	27	"	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
280	藤〇き〇	"	30	南谷地	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
281	瀬〇〇み〇	"	28	上四ツ谷	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
282	鈴〇と〇	"	25	不明(鉄道)	"	" 2a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
対 照		Sh. flexneri 1a(中村菌種伝研株)					+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	

即ち、供試菌25株は、最低濃度のCM、TCに対して感受性を示した。SMに対しては、22株が、最低濃後のディスクに感受性を示したが、他の3株は、最低濃度(2 mcg)のディスクに耐性、中濃度(10mcg)のディスクに感受性を示した。

V まとめ及びむすび

昭和37年7月、仙北郡仙南村後三年地区の赤痢集団発生時に於て分離した、流行の原因である菌型と思われる Sh. flexneri 2aについて、感受性ディスク法(最低濃度

2 mcg) により、感受性試験を実施した結果、使用した SM、CM、TC の 3 種抗生物質に対して、凡ての供試菌株は感受性であり、耐性の赤痢菌は、認められなかつた。これは、余が昭和36年の赤痢集団発生時に分離された、6 地区の赤痢菌について実施したところの、薬剤感受性試験結果¹⁾ と同じ様な結果で、実験に供した赤痢菌株数は少ないが、秋田県内に於て、近年、集団発生時に

分離された、流行の原因である菌型と思われる赤痢菌の大部分は、抗生物質 SM、CM、TC に対する耐性を獲得していないものと推量できる。

参考文献

- 1) 茂木： 秋田県 衛生研究所報 No. 6. P16.
1962 他省略